

みしまびと映画「惑う～After The Rain～」

～夏の撮影を終えて～

平成26年7月に始まった地域の映画をつくるみしまびとプロジェクト。映画完成だけが目的ではなく、「地域の未来をつくる人」をつくることを目指しています。市民がボランティアスタッフ、エキストラ、撮影場所の提供など、さまざまな方法で携わることができます。制作のメインの部分はプロのスタッフが担い

ますが、地域の人も映画制作に関わり、一緒につくりあげていくことがこの映画の特徴です。

夏の撮影は楽寿園内楽寿館・梅御殿を中心に、市内各所で行われました。冬の撮影は12月に行う予定です。
問合せ 商工観光課 (☎983-2766)、みしまびとプロジェクト事務局 (大社の杜内☎090-7680-2099)

夏の撮影の様子

惑う～After The Rain～

変わりゆく時代の中で
世代を越えて受け継がれる家族愛

【あらすじ】

舞台は1980年の三島。物語は石川家の結婚式前日から始まる。明日嫁いでいく長女「いずみ」と食卓を囲む母「イト」。いつもと変わらない二人の風景。かつて石川家は父「誠志郎」がイトと塾を営み、多くの若者、ご近所さんが集まりにぎわっていた。誠志郎の死や妹「かえで」の妊娠など、さまざまなことを乗り越え、家族は未来をつくっていく。時代と共に移りゆくものと受け継がれてゆく家族愛。豊かな街の表情と世代を越えて語り継いでいきたい愛の姿を、飾らなくとも美しい日本女性の生き様を通して丁寧に描く物語。

【キャスト】



▲いずみ役：佐藤仁美さん



▲かえで役：中西美帆さん



▲イト役：宮崎美子さん



▲誠志郎役：小市慢太郎さん



①映画制作発表 ②伊豆箱根鉄道の車両を借り切ったの撮影を実施 ③楽寿園では暑い中の撮影 ④主人公一家の書齋。昭和の雰囲気再現しました

スタッフに聞きました



制作班
杉崎亮慈さん

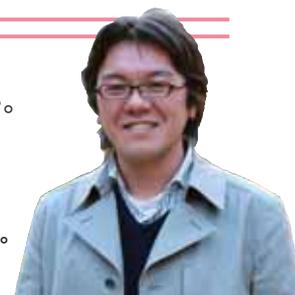
撮影が進むにつれ、プロスタッフが求めていることは何か、どう動いたらよいか分かるようになってきて、現場の楽しさを感じました。価値観が違うメンバー同士だからこそ、お互いの想いを伝えながら作り上げることで、いい映画が生まれると思います。

林弘樹 監督からのメッセージ

日々チームワークが良くなり、みんなが同じ方向を見て活動しているのが伝わってきて、とてもいい雰囲気の中、撮影することができました。みんなの想いはフィルムに宿っているはずです。みしまびとに参加していない人も、まずは来て、現

場の雰囲気を感じてください。関わったら関わった分だけ、感動が生まれるはずですよ。

▶1974年生まれ。さいたま市出身。代表作は「ふるさとがえり」。



ボランティアが支えた撮影現場

●手作り弁当

俳優やスタッフが食べるお弁当も、ボランティアスタッフがつくっていました。毎日裏方で、支えてくれました。



●多彩なエキストラ

しゃぎりのシーンでは、大宮町2丁目しゃぎり保存会の協力を得るなど、多くの市民エキストラが参加しました。



●衣装・メイク

昭和の時代に合わせた衣装の準備もプロスタッフと行い、俳優やエキストラの着付けやメイクに大活躍でした。



●現場の支援

演出、カメラ、照明、音声などの一流スタッフを多くのボランティアがチームワークで支えました。



映画を通して
三島を盛り上げませんか

ボランティアスタッフ募集

冬の撮影に向けて、みしまびとプロジェクトでは、ボランティアスタッフを募集しています。未来に残る映画と一緒に作りませんか。

興味のある人はぜひ、活動の輪に加わってください。詳しくはみしまびとプロジェクトホームページ (<http://mishimabito.com/>) をご覧ください。



スタッフに聞きました



美術班
長澤禎文さん

みしまびとの参加メンバーそれぞれがアイデアを出すことで撮影を上手く進めることができました。撮影参加後、映画を見る際、さりげなく置かれている物も気になるようになりました。撮影に参加したからこそ、このような新しい見方ができるようになりました。

スタッフに聞きました



メイク
橋内弥生さん

出演者のメイクを担当しました。映画撮影でのメイクは初めてだったので、撮影が進むごとに小さな達成感が積み重なっていきました。関わっている分、完成するのがとても楽しみです。職業も価値観も違う皆さんの仲間たちに出会えたのもみしまびとに参加したからこそです。